

沖縄の有用植物資源 第9回

リュウキュウヨモギ

キク科

方言名：ハママーチ、インチングサ

学名：*Artemisia campestris* L.



『沖縄の有用植物資源』第9回目は、リュウキュウヨモギを紹介したいと思います。

リュウキュウヨモギは、方言でインチングサやハママーチと呼ばれています。海岸の砂地に多く見られる低木状の多年生草本で、久米島、慶良間島、奥武島などの海岸に生息しています。

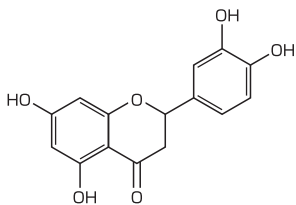
伝統的に扁桃腺炎、痘石、黄疸、糖尿病、腎臓病などの症状に用います。黄疸にはくちなし（カジマヤー）の赤く熟した果実と一緒に煎服したり、かゆみ・湿疹には煎じた汁で患部を洗うと効果があると言われていいます。

工業技術センターでは、経常研究の中で糖尿病予防の指標となる糖類分解酵素阻害活性試験や血圧上昇抑制の指標となるアンジオテンシン変換酵素阻害活性試験、また抗酸化活性試験を行い、それぞれの試験にお

いてリュウキュウヨモギの50%エタノール抽出エキスに活性があることを確認しました。

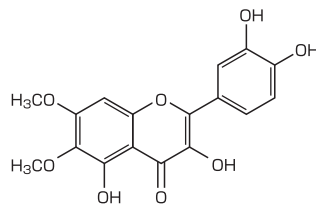
また、琉球大学との共同研究で、リュウキュウヨモギからフリーラジカル消去効果を示す成分を分離し、その効果を検証してきました。その結果、エリオディクチオール、ラムネチン、ユーバトリチン、2-(パラヒドロキシフェノキシ)-5,6,7-トリヒドロキシクロモンなどのフラボノイド類を単離し、それぞれの成分にフリーラジカル消去効果を確認しました。またその活性の強さが、構造中の隣接するフェノール性水酸基の有無と強い相関があることがわかりました。

活性の強かった成分



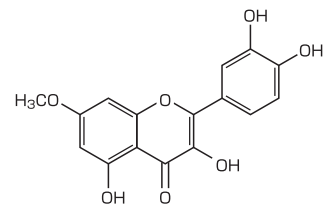
【エリオディクチオール】

DPPH ラジカル消去活性:EC50(μM)=59



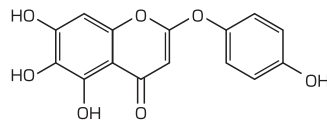
【ユーバトリチン】

DPPH ラジカル消去活性:EC50(μM)=61



【ラムネチン】

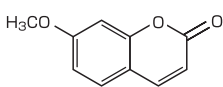
DPPH ラジカル消去活性:EC50(μM)=127



【2-(パラヒドロキシフェノキシ)-5,6,7-トリヒドロキシクロモン】

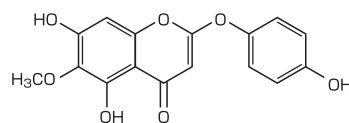
DPPH ラジカル消去活性:EC50(μM)=61

活性の弱かった成分



【ヘルニアリン】

DPPH ラジカル消去活性:EC50(μM)=>2000



【キャピラリン】

DPPH ラジカル消去活性:EC50(μM)=>2000

参考文献

『沖縄の薬草百科』大田文子、多和田真純共著（1985）新星図書出版

『平成11年度 沖縄県工業技術センター研究報告』P35～57 / 『平成10年度 沖縄県工業技術センター研究報告』P9～22